

フィンテック

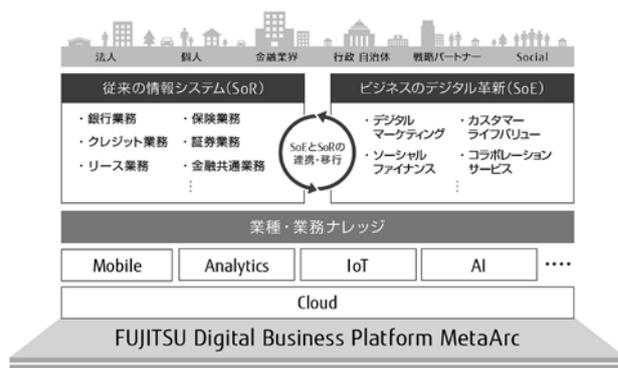
「フィンテック (Fintech)」とは、金融を意味する「ファイナンス (Finance)」と、技術を意味する「テクノロジー (Technology)」を組み合わせた造語です。「フィンテック」の登場によって、これまで金融機関がある種独占的に提供し、変化に乏しかった金融商品・サービスを、ICTを活用することによって、利用者の目線から「安く、早く、便利」に変えていこうとする動きが活発化しています。

* 出展 株式会社富士通総研のWebサイトから一部を引用

■ Fintech時代の新しい金融ソリューション体系「Finplex (フィンプレックス)」

富士通はこれまで、金融サービスを提供する金融機関のニーズに主眼を置き、SoR領域を中心にソリューションを提供してきました。今後は、従来と同様の高い信頼性でSoR領域を支えながら、金融サービスの利用者のニーズに基づいて、SoE領域のソリューションの提供にも注力し、業種・業態の枠を超えた「FUJITSU Knowledge Integration」によるビジネス連携によって、金融機関の新たな価値の創出に貢献していきます。

富士通は、金融機関のデジタル革新を加速し、未来の共創を目指す金融ソリューションを「Finplex」として体系化しました。富士通の持つ金融機関、および金融サービスに関わるSaaS、PaaS、ソリューションパッケージを体系化し、クラウドやビッグデータをはじめ、IoT、モバイル、AIなどの最先端技術を融合させた富士通のデジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」上から提供します。



<「Finplex」全体像>

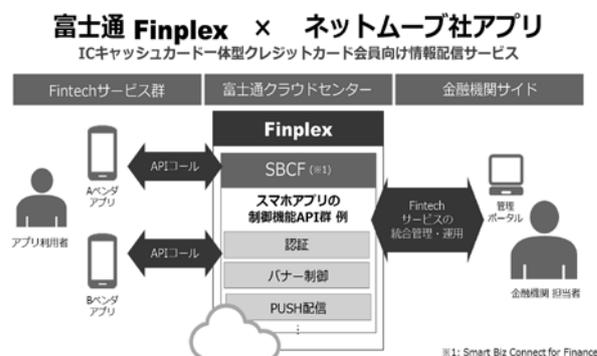


<提供価値>

■ Fintech企業との共創事例

南都銀行様スマートフォンアプリケーションサービス

南都銀行様は、複数ベンダーによるスマートフォンアプリケーションサービスを実現する富士通の「Smart Biz Connect for Finance」(以下、SBCF)とネットムーブ株式会社のアプリケーションを連携させ、ICキャッシュカード一体型クレジットカード会員向けに情報を配信します。SBCFを利用することでサービス構築の短期化やコスト削減、複数ベンダーのスマートフォンアプリケーションの統合運用が可能となります。



■ ブロックチェーンへの取り組み

みずほ銀行と富士通、国境を越えた証券取引の決済プロセス効率化に向けた実証実験を実施

2016年3月、みずほ銀行と、富士通、富士通研究所は、取引履歴の改ざんが事実上不可能なブロックチェーン技術を応用し、国境を越えた証券クロスボーダー取引の決済業務に要する期間を、従来の3日間から即日効率化するための実証実験を共同で実施しました。